

施策評価シート（評価対象年度：平成元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	6 教育環境の整備	② 施策番号	7103
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	3 子どもが豊かな人間関係と学ぶ喜びを育むまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 義務教育の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育部	教育総務課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	・児童、生徒 ・学校施設
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	・学校施設に関し、日常の維持管理や適切な改修を実施することにより、学校の機能の保全・向上を図り、良好な教育環境を提供する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	・学校施設の老朽化対策と併せて、今後の児童生徒数の減少に伴い学校施設の最適配置が求められている。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標(成果指標)		単位	指標とした理由・考え方
①	小学校に行くのが楽しいと感じる児童の割合	%	小学校児童のアンケート結果が現段階の教育環境の整備状況を最も反映していると判断したため
	計算式		
②	学校に行くのが楽しいと感じる生徒の割合	%	中学校生徒のアンケート結果が現段階の教育環境の整備状況を最も反映していると判断したため
	計算式		
③	計算式		

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
①	小学校に行くのが楽しいと感じる児童の割合	%	目標値	100	100	100	100	100	全国学力・学習調査データであり、H30は調査項目なし、R2は調査未実施
			実績値	83.9	—	85.9	—	—	
			達成率	83.9%	—	85.9%	—	—	
②	学校に行くのが楽しいと感じる生徒の割合	%	目標値	100	100	100	100	100	全国学力・学習調査データであり、H30は調査項目なし、R2は調査未実施
			実績値	77.0	—	75.3	—	—	
			達成率	77.0%	—	75.3%	—	—	
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方向性	
1	学校プール授業事業	委託料	千円	4,134	1,523	0	10,540	8,614	5,598	D	イ e	▲
2	小学校管理事業	小学校に行くのが楽しいと感じる児童の割合	%	—	85.9	—	103,365	92,778	106,125	A	ア	◎
3	小学校施設保全整備事業	保全整備執行率	%	95.27	99.99	97.00	37,609	585,449	354,839	A	ア	○
4	中学校管理事業	学校に行くのが楽しいと感じる生徒の割合	%	—	75.3	—	58,431	57,040	63,635	A	ア	○
5	中学校施設保全整備事業	保全整備執行率	%	97.85	78.34	92.00	124,563	35,769	31,809	A	ア	
6	中学校老朽化対策事業	改築、改修率	%	0.0	25.0	25.0	1,587,639	315,415	261,590	A	ア	
7												
8												
計	6						1,922,147	1,095,065	823,596			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	学校施設に関し、日常の維持管理や適切な改修を実施し、学校の機能の保全・向上を図り、良好な教育環境を提供することによって、義務教育の充実に寄与する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	安全安心で、快適な教育環境が提供できているか。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	小中一貫教育事業を推進するために、ワークショップや授業見学など、保護者をはじめとした市民の積極的な市民参画の機会の創出に努めている。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	快適な学校施設の維持管理、適切な施設保全等、義務教育を充実するための事業として、適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	構成事業のうち、学校プール授業事業については、学校プール施設から屋内プールへと移行するため、学校プール施設を廃止

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	空調設備及びトイレ改修についても一定の整備が完了。今後は、老朽化対策を進めるとともに、それと並行して小中一貫教育の実現に向けた学校施設の在り方(統合再編計画)の検討を加速する必要がある。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	小中学校の在り方について一定の方向性を検討するとともに、学校施設の個別施設計画を策定。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	学校施設の老朽化対策を進めつつ、学校の統合再編計画を策定。
中長期的対応 (3～5年をめどに取り組む改善案)	策定した学校の統合再編に順次着手していく。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	学校施設の老朽化対策は、良好な教育環境の実現にとって重要な課題である。 計画的・効果的な保全に取り組まれるとともに、将来の児童・生徒数の予測、学校配置のあり方、地域としての機能配置等を踏まえた学校施設整備への取組を進められたい。	